

アユ 昨年上回る遡上確認

解禁に向け期待高まる 五ヶ瀬川

五ヶ瀬川の岩熊井堰（ぜき）を遡上（そじょう）したアユの数が、前年同期を大幅に上回ったことが延岡市と県の調査で分かった。水量や水温など条件の違いから単純には比較できないものの、アユ解禁に向けて期待の高まる結果といえそうだ。



岩熊井堰を遡上するアユ（3月14日撮影）

調査は例年より1カ月早い3月1日に開始。井堰兩岸と中央、左岸の舟通しを改良した魚道の計4カ所で堰を越えるアユをカウントした。

市水産課によると、前半のピークを迎えたのは水温が15度に達した3月15日。午後2時から4時まで30分置きに計5回、各5分間ずつ計数したところ、流れの緩やかな舟通しで計4102匹、右岸魚道で3767匹など計約8000匹の遡上を

確認した。

4月に入っても活発な状態が続き、同20日に約4000匹を数えるなど計11回の調査のうち5回で3000匹を超した。

その後は徐々に減りつつあり、1日の調査では中央魚道付近にたまっていった群れも見られなかったという。

一方、5分間計5回の数値を基に午後2時から2時間30分の遡上数を推定したところ、最も多い日で約4万7000匹となり、この1日だけで昨年の調査期間（計14回）全体の推定遡上数を上回った。

県によると、五ヶ瀬川のアユの漁獲量は昭和47年の89・3トをピークに減少し、平成21年以降は10トを下回っている。このため、昨年からの資源回復に向けた取り組みを始めた。今春までの2年続け延岡湾での海産稚アユ漁を休止した。

市水産課は「今年は大然アユの遡上が例年より1カ月ほど早く始まり、調査で確認された数も多い。一概には言えないものの、海産稚アユ漁の休止も要因の一つと思われる」と話している。調査は今月末まで予定している。

牧水の「花」の歌展

若山牧水記念文学館

7月8日まで

日向市東郷町の若山牧水記念文学館(伊藤一彦館長)で企画展「牧水の花」が始まった。昨年9

10月に開かれた「牧水の月」に続く「花鳥風月シリーズ」の第2弾として計画した。若山牧水没後90年記念事業の一環で、7月8日まで(毎週月曜日は休館)。

牧水が詠んだ短歌約9000首を同館が調べたところ、約1800首で植物が登場するという。このうち春夏秋冬の季節ごとに咲く花を選び、その代表的な短歌合わせて32首を展示。「うす紅に葉はいちはやく 萌え出でて 咲かむとすなり 山ざくら花」の直筆作品ほか、牧水が友人の歌人石川啄木の最期をみつた

当時の臨終記と、その時は身近な自然に対しての詠んだ作品も並ぶ。愛にあふれた文学者。作同館の担当者は「牧水」品を通じて、改めて自然



若山牧水記念文学館で開かれている企画展「牧水の花」(30日、日向市東郷町)

の素晴らしさを考えるきっかけにしたいだければと話し、期間中の来場を呼び掛けている。

花鳥風月シリーズの第3弾「鳥」は7月15日～9月30日、第4弾「風」は10月7日～12月23日に計画。全シリーズ終了後、登場した短歌をまとめた書籍を制作することになっている。

開館時間は午前9時か

ら午後5時まで。入館料は高校生以上300円、小・中学生100円。5月5日の「こどもの日」は中学生以下は入館無料、高校生以上は100円で入館できる。